

# 植物と人々の博物館メールマガジン

第 118 号 2024 年 12 月 23 日発行



もう 1 月も前に、小菅村には初霜があったようです。庭のユズも収穫して、希望者に配りました。このところ、近隣の都立公園を散策しています。武蔵野公園の向こう、東八道路沿いにとっても広い多摩墓地があります。その南東に浅間山公園があります。野川公園のヴィジターセンターは建て替わりました。イチヨウはすべて散りました。不思議なことに、ほとんど緑葉が残っているロウバイ蠟梅の花が早くも咲き始めました。マユミの実がはじけてきれいです。皆様が楽しいクリスマスとお正月を過ごされるように願います。

安孫子さんら主宰の「田端遺跡」見る会に参加しました。冬至の日没を縄文時代の環状列石から見守るのです。昨年、意外にも浦河治造さんが参加し、今年もお会いすることを期待していました。文化功労者に選ばれて、表彰を京都で受けるために出かけて、体調を崩されて、急遽欠席でした。縄文オタクが 15 名ほど参加しました。

植物と人々の博物館は社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご利用くださり、整理もご一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。借用中の倉庫はすでに雨もりしています。電気・水道などは有りません。

## 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：春が来るまで閉館します。さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただくと嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。担当 木俣 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

### 主な作業：

- ①書籍 8000 冊・環境教育などの資料・書籍の整理、インドの関連書籍も多い。
- ②日本、インド、タイなどの民具の整理
- ③展示の企画：たとえば、タイやインドの民具、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念記録
- ④インド亜大陸、中央アジアの植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

### ○報告

- ①原沢文庫はとりあえず、おおかた書架に納めました。
- ②11月15日は書籍と民具のメンテナンスをしました。11月25日はキビの標本整理をする予定でしたが、中央本線の列車が事故で止まり、高尾で引き返しました。バスの時間に間に合わないと判断したのです。12月5日に変更し、やっと標本整理を再開しました。
- ③11月20日、高橋さん来訪で、黒澤さんが対応しました。12月14日に西原に行くように、仲介しました。
- ④50周年記念企画を話し合っています。
- ⑤木俣文庫の日本語書籍は大方、来年春には寄贈します。訪問国で集めた外国語の書籍や文献も『Essentials of Ethnobotany』を書き終えたら、1～2年の内に寄贈します。

## ○予定

### 1) 講座『里山再生ボランティア入門』の講義依頼

日時：2025年2月9日 木俣担当 自然文化誌研究会/植物と人々の博物館  
「1970年代の檜原村の雑穀調査から～人間と穀物の共生、文化的進化を学ぶ」  
場所：桧原村藤倉、NPO法人さとやま学校・東京  
<https://satoyama-gakkou.org/field/>

2) 民族植物学ノオト第18号は2025年3月末に発行する予定です。随筆など何でも、ご寄稿くださるとうれしいです。すべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

### 2) 電子書籍：

編集子の自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は、順次、ネット上で公開してきました。誤字、脱字、誤変換などは、年度内にもう一度、確認、修正します。第5章南インドの雑穀農耕文化複合を近日中に公開します。インド起原雑穀の栽培化過程を見ることができる重要地域です。多様な語族、民族がモザイクの様に分布しています。第6章から第12章まではすでに書き終えていますので、春までに第13章で新たな栽培起原と伝播仮説、第14章で未来への提案をします。自選集全6巻のまとめとして、日英文要約版（第5巻“Essentials of Ethnobotany”）を書き始めています。あと数年頑張ります。1000ピースのジグソーパズルのようで、とても面白いですが、多くの観察事象や実験データという1000ピースをはめ込むのは複雑で難しいです。同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を進めています。

自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』や句集に順次新作を追加しています。世間でもてはやされていることとは、まるで異なった方向を目指してきたようで

す。変人奇人はこれでよかったと考えています。この世のゴールを守ることがキパー、1 大学人の役割なのでしょう。

3) 公式 HP : 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp) で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています (すでに 5 回登録済)。すべての記事は無料で公開しています。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまでが集成されており、ここに保存されている記事は記録として残りますので、とてもありがたいです。

4) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるフィールド・ノート、スライド 35mm など、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

#### 5) 雑穀栽培

簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。簡単な栽培、加工、調理についてお伝えします。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](#)

[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](#)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](#)

詳細は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学』を検索してお読みください。

#### 6) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。将来に向けて、植物と人々の博物館へのご寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただくとありがたいです。今のところ、上野原市西原のびりゅう館に森とむらの会文庫を一括貸し出しています。他に数名の方に、まとめて関係資料を貸し出しています。

これまでに、多くの方にご寄附を頂き、感謝しています。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

#### 2. 自然文化誌研究会 (学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部)

○**予定**の詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。真冬のキャンプは、12月27日～29日、小菅村キャンプ場で開催の予定です。子供たち、学生たちも含めて、40人ほどが集まるようです。

#### ○**報告**

自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来2025年に創立50周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で資料の一部を公開しています。ちなみに大学探検部は全国に20ほどはあります。

<https://www.millettimplic.net/archives/historyinch2025.html>

来年は創立50周年ですから、企画ワーキンググループで話し合いを重ねています。『50年史』をまとめるとか、50年間に関わった人々と思いを語り合う会とか、企画が出始めました。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、何千人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1泊2日を過ごします。学大環境教育研究センターの了承も得られています。11月19日に企画について、2回目の話し合いをしました。

①詳細はまだ未定ですが、おおよその仮案です。

日時：2025年10月4日～5日、1泊2日

話題：未定

場所：東京学芸大学彩色園など。仮承認を得ています。

内容：写真展、談話会、50年記念誌の発行などを検討中。

②50周年記念の前企画、座談会の検討～学術探検の系譜と環境学習の創造～も、12月17日に話し合いを始めました。案の整理ができれば、企画WGに提案します。

### 3. **環境学習市民連合大学** Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

#### ○**小金井環境市民会議**

11月30日に、東京都の担当部署主催の説明会に出て、道路建設反対意見を述べました。かつて、東京都の環境保全、環境教育の検討会委員、神代植物園の将来計画委員もしました。この社会的責任からは、武蔵野公園に連なる緑地を保全するのは東京都の環境保全政策であるはずなので、60年前の道路計画は見直すべきだと、意見を述べました（写真）。

~~~~~

## 植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) :

館長 : 木下善晴、顧問研究員 ; 安孫子昭二

研究員 : 木俣美樹男 (東京、専任研究員、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ベトナム)、大澤由実 (神奈川) ほか

公式 HP : 自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行 : 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

[エコミュージアム日本村 / ミューゼス研究会](#) (山梨県小菅村) : 代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

[自然文化誌研究会](#) : 代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

事務局長 : 黒澤友彦 (山梨県小菅村)

伝統知顧問 : 守屋秋子 (小菅村)、岡部良雄 (丹波山村)

~~~~~

### 編集子独り言 :

今年の作業も終わり、冬眠します。法の番人が酷いことをして、証言を翻して、居直る、銀行員が預かり物を盗む、などあまりに道義がない。最もお堅い職業の人たちが、信義を裏切る。無差別殺人は極端だが、日常の犯罪である心の殺人、撥撫・いじめ・差別など、侵略・支配の拡大、カリユグ・人新世の汚濁の極みである。この世をまっとうに生きるだけで、修業しなくても、悟りに至るというのは、その通りだと思える (ラーマヤナ)。歴史を学ぶことによって、未来を描くことができる。歴史を忘却の穴に放り込んで、希望は創れない (1984年、J. オーウェル)。少年よ、大志を抱け (クラーク)。

### 写真

#### 1) 植物と人々の博物館の現況

JR 中央線猿橋駅の小菅の湯行きバス停、ささやかな展示準備



## 2) 佐野川の宮本茶園

アワの片づけ、借金なしダイズ収穫、ムギ類の播種準備



### 3) 近隣の公園の晩秋

神代植物園、浅間山公園、武蔵野公園、野川公園のムーちゃん



### 4) 都道完成模型と説明会



公園に至る予定地からは人家 70~100 戸が立ち退きを求められている。現在、住民は合意していないし、住んでもいるのに、その家々は消されて道路になっている。嬉々として説明する行政職員は無情でデリカシーが全くない。

### 5) 田端環状積石遺構から見る冬至の夕陽

